《3年生》

学校こそ休校ですが、受験生であることには変わりありません。特に今年は大学入試が大きく変わる年です。以下のことに注意して、日々の学習に励んでください。

I. 新しい入試制度

① 大学入学共通テスト(新テスト)

本年度より、昨年までの「センター試験」に代わって、「大学入学共通テスト」が始まります。

- ・試験科目や時間は「センター試験」とほぼ同じ、「**数学ⅠA**」のみ**60分→70分**になった。
- ・日程は1月16日(土)、17日(日)だが、時間割は6月頃に発表になる
- ・当初予定されていた「国語」と「数学」における**記述式問題は見直し**となったが、多くの科目で、**思考力・判断力・表現力を必要とする問題が出題される**と思われる
- ・「英語」は筆記200点、リスニング50点からリーディング100点、リスニング100点に変更される。また、リーディングでは従来あった発音・アクセントや文法問題がなくなる。ただし、**多くの国公立大学ではリーディングとリスニングの配点の比重を4:1や3:1と変えているところも多い。**

② 民間英語検定試験

当初本年より導入が予定されていた「民間英語検定試験」の全員受験は延期となりましたが、**一部の大学では、総合選抜型入試(旧AO入試)や学校推薦型入試(旧公募制推薦)において、一定の検定成績が出願資格**となっています。

(例) 出願資格がCEFR規準B1以上(GTEC960点、英検2級以上)の大学

- ・**神戸市外国語大学** 学校推薦型選抜入試(公募制推薦)
※ 従来の英語検定は認めていない。
検定試験の成績を英語の試験の成績として利用する。
- ・**関西学院大学** 総合型選抜入試(旧AO入試)文系学部(理系学部はA2以上)
- ・**兵庫県立大学国際商経学部** グローバルビジネスコース(すべての入試)
国際商経コース(後期入試:英語の試験の成績として利用)

II. さまざまな入試制度を知る

① 一般選抜型入試

もっとも一般的な入試形態で、国公立大学の場合は1月の「大学入学共通テスト」を受験し、2月以降の2次試験と併せて合格を判定します。私立大学は、主に1月下旬～2月に行われますが、大学によって多様性があります。

② 総合選抜型入試(旧AO入試)→ 9月以降エントリー開始(合格発表は11月以降)

大学の求める能力、意欲、適正を多面的、総合的に評価、判定する入試です。ただし、これまでのAO入試とちがって、**すべての入試で「共通テスト」や「小論文」等学力を問うテストが課されます。**

③ 学校推薦型選抜入試(旧公募制推薦)→ 11月以降出願開始(合格発表は12月以降)

一定の条件をクリアすれば、誰でも受験できる試験ですが、大学によって、推薦入試の方が難しいところや一般入試の方が難しいところがあり、事前によく調べる必要があります。また、**関関同立等難関校はほとんど実施していません。**第1志望校に合格するためには、むやみに滑り止めとして受験することは禁物です。

④ 特別推薦(指定校推薦)→ 9月に校内選考、11月以降受験

各学校の進学実績等にあわせて、指定された人数を推薦できる入試制度で、学校からの推薦を受けた後は、面接や小論文が課される大学が多いですが、中には試験を課さないところもあります。基本的には専願で、合格したら必ず入学することが条件です。早く合格が決まるので、つい手を出しがちですが、入学後、勉強不足で大学の授業についていけない等問題も多いので、必ずしもおすすめではありません。また、**どの大学から依頼が来るかは9月当初にならないとわかりません。**

※ その他の入試(スポーツ推薦、帰国子女等)

大学が提示する一定の条件に当てはまるものだけが出願できる入試制度で、該当者はあまりいません。(近畿大会や全国大会出場等)

今からできる取り組み

1. 「大学入学共通テスト」に向けた対策

- ① 大学入試センターが行った**試行テスト(平成 29・30 年度試行調査)**を解いてみる。テスト問題は「大学入試センター」のホームページからダウンロードもできる。[\(https://www.dnc.ac.jp/\)](https://www.dnc.ac.jp/)
- ② ここ数年の「センター試験」の問題は、かなり思考力等を必要とする問題が出題されているので、直近の**センター試験の過去問**を解くことも有効である。(同じく「大学入試センター」のHPからダウンロードできる)

2. 「民間英語検定試験」(受験に必要な生徒のみ)にむけた対策

- ① 本校では**7月18日(土)**に昨年8月末に行った**GTEC検定試験**を希望者対象に実施する予定です。申し込みについては、別途連絡しますので、受験希望者は昨年の問題等を参考に各自準備をしておいてください。
- ② **英検受験**を希望する生徒は、各自HP (<https://www.eiken.or.jp/eiken/>)で確認してください。
※ ただし、上記①、②とも実際に実施されるかどうかは現状では未定です。

3. 受験校と入試制度を調べる

国公立大学、私立大学ともに本年度から入試制度が変わりますが、多くの大学はHP等で新しい制度について、すでに公表しています。

- ① **自分が受験しようと思っている大学の入試制度や配点等**について調べてみよう。国公立大学では英語のリーディングとリスニングの配点比率も公表されています。
- ② あまり早くから**受験校を絞りすぎない**ようにしよう。「家から通えるところ」等、あまり条件を固定せずに、幅広い大学について調べてみることで、より自分に合った大学を見つけることができます。

「行ける大学」を探すのではなく、「行きたい大学」を探そう

4. 受験科目の確認と準備

国公立大学を受験するには、「大学入学共通テスト」で基本的に**文系6教科7科目、理系5教科7科目、計900点満点分**の受験が必要です。特に**文系で「公民」を受験しないために、受験できる大学が大幅に減る生徒**がよく見られます。「倫理」「政治経済」「現代社会」については独学で勉強して受験する生徒も少なくはありません。自分で参考書等を探してでも、7科目900点をそろえるように今から準備しよう！

5. 受験生としての生活リズムの確立と学習時間の確保

受験勉強が本格的になると、学校が再開されても平日5～6時間、休日10～12時間程度の学習が必要になってきます。特に今は1日のほとんどを家庭で過ごしているはずですが、今のうちに受験生としての学習リズムを確立させよう。最初は1日5～6時間からはじめて、徐々に増やしていくと、そのうち10時間程度の学習は苦ではなくなります。もちろん、机の前にいるだけで勉強時間ではありません。集中力に自信のない人は、いろいろと工夫してみよう！

また、**携帯電話(ゲーム)、マンガ等の誘惑をいかに断ち切る**かも今後を左右します。

6. 一般入試を目標として長期的な計画を立てる

受験生の多く、特に**難関校を目指す受験生はほとんど「一般選抜入試」を目標に勉強しています**。受験勉強のスタートが遅れると、焦ってしまい、つい目先の推薦入試等で安易に進路を決めてしまいがちです。受験勉強の効果が出るのは早くても半年先です。後になればなるほど、自分の実力は上がっています。弱気は禁物です。**最後までがんばる**勇気を持とう！

- ・「**大学入試共通テスト**」に備えよう！
- ・**受験校は幅広い選択肢**を持とう！
- ・**受験科目を絞らず、苦手科目は克服する！**
- ・**あくまでも一般入試を目標に！**